告白はする派？される派？

ー恋愛観の国際比較ー

森岡ゼミ
モリモリクラブ

研究背景・内容

「海外では告白しなくても自然に付き合う」という動画→恋愛の始まり方の違いに関心を持った

💡SNSを通じて恋愛文化が世界に広がる一方で、国ごとに価値観や社会構造は異なる。

日本・韓国・フランス・ドイツ・スウェーデン

↳ 恋愛観や結婚観の違いを経済・文化・ジェンダーの視点から比較

日本

日本の独身男女には、**「自分から積極的に動くよりも、相手からのアプローチを待つ」**傾向が強くみられる。また、「恋愛は面倒」「恋愛に自信がない」と感じる人も多く、恋愛に対して消極的な姿勢が、非婚・晩婚化の一因になっている可能性がある。

恋愛観の特徴（内閣府調査より）

「相手からアプローチがあれば考える」と答えた人は男性**43.5%、女性55.4%**と多く、「自分から積極的にアプローチする」とした人（**男性17.3%、女性8.5%**）を大きく上回っている。日本では男女ともに“**待ちの姿勢**”が強いことがわかる。

恋愛・結婚意識の関係

- 交際＝結婚と捉える傾向が強い。
- 結婚の主なメリットは「子ども・家族を持てること」。
- 経済的不安や「家庭を持つ責任感」が恋愛行動を慎重にしている。
- 自己肯定感が高い人ほど、結婚や子育てに前向きな将来像を描いている。

背景要因

- 「恋愛＝人生を豊かにする」と考える人が少ない。
- 職場などでの出会いの減少。
- 自分からアプローチしにくい社会的・文化的雰囲気。

恋愛や結婚への関心自体は低くないが、**「自分から動くことへの不安・抵抗感」が強い**ため、恋愛のきっかけが生まれにくくなっている。結果として、この恋愛への消極性が、日本における非婚・晩婚化の一因になっていると考えられる。

韓国

恋愛観・結婚の経済的背景

- 結婚意向の低さ: 国際比較で「いずれ結婚したい」と考える割合が男女ともに最低水準（内閣府調査）。
- 「三放世代」: 就職難、結婚・出産費用の高騰を背景に、恋愛・結婚・出産を諦める若者が増加。
- 非婚化の要因: 雇用の不安定化や経済格差拡大など、経済的理由が強く影響。

特徴的な恋愛文化

- 「告白」文化: 恋愛関係を始める際に、曖昧さを避け「付き合ってください」と明確に公式化する傾向が強い。
- 恋人最優先: 恋人と異性の友人関係を明確に区別し、「恋人が第一」と考える傾向。
- カップル文化: カップルアイテム（リング、Tシャツなど）を身に着け、関係性を公に示す習慣が定着。

SNSの役割

- 関係の公表: ソーシャルメディア上でロマンチックな瞬間を共有し、関係性を公的にアピールする傾向が強い。

フランス

個人の自由を重視

フランスでは、恋愛は家族や宗教、社会的規範に縛られず、当事者の自由な意思に基づくものである。恋愛は「自分がどう感じ、どう生きたいか」という個人の選択の一部として尊重されている。

理性的で成熟した関係

感情に流されるのではなく、理性をもって相手を理解し、対話を通じて関係を築く姿勢が重んじられている。恋愛は情熱だけでなく、思考と尊重に基づく成熟した関係である。

恋愛と結婚の分離

恋愛は自由な感情の表れであり、結婚は社会的契約として区別されている。そのため、結婚という制度にとらわれず、恋愛そのものの価値を重んじる傾向がある。

自立と平等の尊重

恋人同士であっても互いに自立した個人であり、依存や支配ではなく、対等な関係を築くことが理想とされている。男女平等の意識が恋愛観に深く根付いている。

ドイツ

恋愛と結婚：自由で対等な関係へ

- 20代~30代の70%が「お互いの自立と信頼の両立」が理想と回答
- 結婚率は60%（1991年）➡51%（2019年）へと減少
  結婚は「義務」ではなく「選択」という価値観
- 52.3%は「愛している」という言葉を一度も使ったことがない
  ➡非言語的な愛情表現を好む

社会的背景

- 男女平等の意識の拡大で「家事・収入を共有する関係」が主流に
- 教育水準が高いほど、平等で自立した恋愛を重視
- 政府も育休制度などで「協働する家族」を支援

まとめ

相手を束縛せず、対等な立場で支え合う関係が理想とされる。結婚は“義務”ではなく、“選択”として尊重され、社会全体もその多様な関係のあり方を支える仕組みを整えつつある。

スウェーデン

スウェーデンでは結婚や性別役割に縛られない、個人の「自立」と「対等性」を基盤とした恋愛・家族関係が確立されている

1.家事育児に積極的な男性が「魅力的」とされている
男性の育休取得率は約9割。性別に関係なく家事や育児を担う姿勢が評価され、恋愛でも対等な関係が好まれる。

2.非婚のカップルによる家族形成が一般的
スウェーデンでは結婚にこだわらず同棲や事実婚を選ぶカップルが多く、子どもの半数以上（約54.5%）が非婚の親から生まれている。法制度や社会の理解もあり、結婚せずとも家庭を築くことが自然な選択肢となっている。

3.若者が早くから経済的に自立している
多くの若者が20歳前後で親元を離れて一人暮らしを始める。国家の福祉制度も後押しし、恋愛や結婚に経済的な依存を持ち込む必要がないため、自由で柔軟な関係づくりが可能になっている。

恋愛診断

Q1. 好きな人ができたらどうする？

A. 相手の気持ちを探りながら、タイミングを待つ
B. すぐにアプローチ！気持ちは隠さない
C. さりげなく距離を縮めて、自然に始まるのを待つ
D. まず友達として信頼関係を築く
E. 一緒に過ごして自然に関係を育てたい

Q2. 恋人との理想の関係は？

A. 思いやりと安定
B. いつも一緒にいたい
C. 自由で情熱的
D. 信頼し合う大人の関係
E. 対等で支え合うパートナー

Q3. 愛情表現のスタイルは？

A. 行動や気配りで伝える
B. 言葉やスキンシップで伝える
C. 自然に言葉と行動で伝える
D. 無理せず誠実に行動で見せる
E. 話し合いや共有を大事にする

Q4. 恋人と過ごす理想の時間は？

A. 家でのんびり一緒に過ごす
B. カフェやデートスポットでロマンチックに過ごす
C. おしゃれに街歩きやワインデート
D. 自然の中や趣味を共有する時間
E. 旅行やアクティビティを一緒に楽しむ

Q5. 恋における一番大事なものは？

A. 相手への思いやり
B. 熱量と愛情表現
C. 自然なフィーリング
D. 信頼と誠実さ
E. 自由と尊重

結果
• Aが多い → 🇯🇵 日本タイプ：控えめで思いやり重視の愛。
• Bが多い → 🇰🇷 韓国タイプ：情熱的で甘い恋を好む。
• Cが多い → 🇫🇷 フランスタイプ：ロマンチックかつ自由な恋。
• Dが多い → 🇩🇪 ドイツタイプ：誠実で堅実な愛を大事にする。
• Eが多い → 🇸🇪 スウェーデンタイプ：自由でフラットなパートナーシップ。

まとめ

各国の比較から、恋愛や結婚の価値観は社会構造・文化・ジェンダー意識の違いに大きく左右されることが分かった。

🇯🇵 日本・韓国
恋愛＝結婚を前提とする傾向が強く、男女の役割意識や「告白文化」が根強く残る。
🇫🇷🇩🇪🇸🇪 フランス・ドイツ・スウェーデン
恋愛はより自由で対等な関係として捉えられ、同棲や未婚出産も一般的に受け入れられている。
共通点と違い
SNSの普及で「出会い方」や「付き合い方」は国境を超えて多様化しているが、
その背景にはそれぞれの社会が持つ価値観・制度・文化的前提が反映されている。
結論
恋愛・結婚の形は、どの国も一つではなく、
それぞれの社会が持つ「愛の文化」が形づくっている。

参考文献

第一生命経済研究所. (2021年11月12日). 暮らしの視点(16): (続)独身男女の恋愛・結婚観 ～他国を上回る～. https://www.dlri.co.jp/report/ld/174869.html
武庫川女子大学. (発行年不明). 日本・中国・韓国における若者の恋愛に対する意識に関する研究. 生活環境学研究, (8). 日本・中国・韓国における若者の恋愛に対する意識に関する研究（武庫川女子大）
曺, 美庚. (2010). 対人関係における親密さとスキンシップ許容度 : 韓国人大学生の分析結果を中心に. 比較社会文化, 16, 73–85. https://api.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/17113/p073.pdf
てゆさん. (発行年不明). 韓国の恋愛文化のすべて：伝統から現代まで. note. https://note.com/teyuhuhu/n/n2e98e12576a7